



医療連携だより [アシスト] **ASSIST**

2012・5
No.26

帝京大学医学部附属病院



▲写真は2012年「さくらコンテスト」で理事長賞を受賞した作品です。

患者そして家族と共にあゆむ医療

患者中心の医療

安心安全な高度の医療

医療人の育成

地域への貢献

Content

- | | |
|--------------------------|---|
| 02 病院長挨拶 | 帝京大学医学部附属病院 病院長
地域に根付いた「チーム医療」をめざして..... 中込 忠好 |
| 03 外科 新主任教授 紹介 | 外科学講座 主任教授
すべての外科疾患をその道の専門医が診療..... 池田 正 |
| 04 整形外科 新任教授 紹介 | 整形外科学講座 教授
「ひざ」治療のスペシャリスト..... 中川 匠 |
| 05 外科 新任教授 紹介 | 外科学講座 教授
担当医が一貫して診療全般に関与
安心して治療を受けられる最良の医療を..... 橋口 陽二郎 |
| 06 診療案内 アクセス 編集後記 | |

地域に根付いた「チーム医療」をめざして

帝京大学医学部附属病院
病院長 中込 忠好

地域医療をご担当しておられる皆様方に対し、まず始めに、常日頃から帝京大学医学部附属病院に賜っております様々ご協力、ご指導に対し心より御礼申し上げます。また、昨年に当院で発生した多剤耐性菌による水平感染では皆様に多大なご迷惑をおかけいたしましたが、職員が一体となって感染対策に取り組んだこともあり、その後はアウトブレイクに至るような水平感染は発生しておりません。引き続き標準予防策などの励行を継続するなど水平感染対策を徹底して参りますのでご理解の程よろしくお願ひ申し上げます。

さて、当院は「患者そして家族と共にあゆむ医療」という基本理念の下、次のような基本方針で病院作りをすすめています。

基本方針

- ① 安心安全な高度の医療を提供いたします。
- ② 患者中心の医療を行います。
- ③ 地域への貢献を行います。
- ④ よき医療人の養成を行います。

この中で、③の地域への貢献につきましては、当院は地域の基幹病院として近隣の医療機関と連携させて頂き、「救急・急性期医療」「がん治療」、「高度の専門性」を軸とした医療を推進しております。また、病院内においては、医師、看護師、薬剤師、技師、栄養士、事務職員など全職員が互いに連携し、患者とその家族を支える「チーム医療」を推進し、地域の皆様方とより有効な連携ができるよう努めています。



▲帝京大学医学部附属病院

▲写真は2012年「さくらコンテスト」で
病院長賞を受賞した作品です。



病院長 中込 忠好▶

すべての外科疾患を その道の専門医が診療

外科学講座 主任教授 池田 正

このたび渡邊教授の後任として外科学講座主任教授に就任いたしました。外科学講座は2001年に第一外科と第二外科とが統合されて大講座制となりました。その後心臓血管外科が分離して今日に至っています。現在の陣容は、上部消化管外科を福島教授が、下部消化管外科を今回新任された橋口教授が、肝胆脾外科を佐野教授が、呼吸器外科を川村教授が担当しています。准教授が、末梢血管を新見准教授が担当しており、私が担当している乳腺外科を含めてほぼすべての外科疾患をその道の専門医が診療し、責任を持って手術を行っています。これらの医師は日本でも有数の医師達です。

外科には多くのがん患者さんが来られます。癌の手術というと昔は大きな傷口ができ、疼痛が強く、回復するまでに時間がかかります。癌の手術という

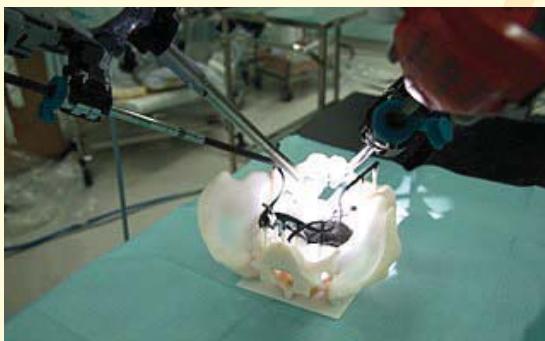
かかるという印象がありましたが、内視鏡手術が導入されて以来様変わりしてきました。内視鏡手術ではお腹あるいは胸部に何か所かの5mmから1cmの穴が開くだけで手術ができ、格段に痛みが少なくなり、術後の回復も早くなりました。当院では最近ダビンチという遠隔操作の手術用ロボットを導入しました。この機械は術野が深くて普通の手術では見えにくく、手術の操作がしにくい部分の手術に威力を発揮します。

当科でも下部消化管を中心とした手術に応用を検討し、徐々に症例を増やしています。

近年外科医の減少が危惧されおり、どう対処するかが全国的に話題になっています。解決のために、チーム医療と連携バスがキーワードになっています。すなわち、放射線科、緩和医療など他科と緊密に連携し、役割を分担しつつ患者さん中心の医療を行っています。最近では医療連携バスにも力を入れており、周辺の開業医の先生からご紹介を受けた患者さん



▲手術室でのダビンチ操作風景



▲ダビンチのマニピュレーター先端部
(遠隔操作すると、ロボットの先端部が動いて細かい作業を行う)

PROFILE

外科学講座 主任教授 池田 正

昭和49年慶應義塾大学医学部卒業。昭和61年栃木県立がんセンター医長、平成3年慶應義塾大学助手、平成8年同専任講師、平成17年同助教授を経て帝京大学助教授、平成18年より教授。現在、日本乳癌学会理事長、日本外科学会理事、日本癌治療認定医機構理事ほか。

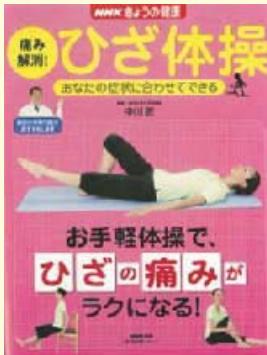


「ひざ」治療のスペシャリスト

整形外科学講座 教授 中川 匠

平成24年4月に着任いたしました中川匠と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は整形外科が専門ですが、中でも膝（ひざ）の病気、けが、スポーツ整形外科を得意としております。膝の病気としては中高齢者に多い変形性膝関節症、けがとしてはスポーツ選手に多く発生する前十字靱帯（ぜんじゅう）損傷、半月損傷などが代表的です。このほかに大腿骨内顆骨壊死症（だいたいこつないかこつえししょう）、反復性膝蓋骨（しつがいこつ）関節脱臼・亜脱臼、膝離断性骨軟骨炎（りだんせいこつなんこつえん）などの、膝関節におこるあらゆる病気、けがの治療を行っております。



▲「ひざ体操」の表紙

にベストな治療を選択できるよう心がけております。変形性膝関節症に対しては足挙げ体操を中心とした自宅で行う運動療法を重視しております。多くの方でこうした保存的治療で膝の痛みの改善、機能の回復が得られております。（興味がございましたらNHKきょうの健康「ひざ体操」をご覧ください）

度や病気の経過にもよりますが、初診時にいきなり手術をお勧めすることはまずありません。人工膝関節の手術は最新のコンピューターナビゲーションを使用して行っているのが特徴であり、下肢の変形の強い方でも術後まっすぐに矯正することができます。



▲人工膝関節に使用するコンピューターナビゲーション

保存療法でうまく改善しない場合は、手術を行いますが、患者さんのそれぞれのニーズに応じて、人工膝関節全置換術、単顆置換術（部分人工関節置換術）、高位脛骨（けいこつ）骨切り術、関節鏡視下手術の中から患者さんと相談の上選択しております。重症怪我する前の靱帯に近い靱帶を

手術によらない保存的治療と治療方針

おもな病気、けがの

手術と組み合わせて、患者さ



▲変形の強い足を、人工膝関節手術でまっすぐに矯正できます。術前後のX線写真



▲正常と同じように再建された前十字靱帯（関節鏡画像）

PRofile

整形外科学講座 教授 中川 匠

平成4年東京大学医学部卒業。同大学整形外科入局。平成12年東京大学大学院医学系研究科卒業。平成13年順天堂大学整形外科助手。平成15年東京大学整形外科助手。平成21年同講師。平成17年ピツバーグ大学リサーチフェロー。平成24年4月より現職。日本整形外科学会専門医。日本体育協会公認スポーツドクター。



安心して治療を受けられる最良の医療を 担当医が一貫して診療全般に関与

外科学講座 教授 橋口 陽二郎

平成24年4月1日に外科下部消化管外科の教授に就任しました橋口陽二郎です。わが国では、大腸疾患、とくに大腸癌と炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローアン病）が年々増加してきており、大腸癌は女性の悪性腫瘍による死因の第1位となっています。

私はこれまで他の大学病院、がんセンターで多くの患者さんの手術、診療を担当してきましたが、大規模中核病院の外科診療の場合、手術患者さんへの対応が中心となり、手術以外の検査、抗癌剤による化学療法、緩和医療などは他の診療科あるいは病院に頼らざるえないことが多々ありました。帝京大学下部消化管外科における診療の特色として、担当医が一貫して検査、手術、化学療法、緩和医療など診療全般に関与していくことがあげられます。指導医・専門医

のもとで術前検査を行い、最善の治療法を検討し、患者さん・ご家族と十分に話し合い、納得していただきた上で手術を行っております。高度進行大腸癌を除く多くの症例で、痛みが少なく、傷も小さくてすむ腹腔鏡手術を第一選択としております。また、進行直腸癌には、放射線照射と抗癌剤を組み合わせた術前化学放射線治療等の集学的治療を行って根治をめざしております。肛門に近い直腸癌については究極の肛門温存手術である内肛門括約筋切除（ISR）を行って、出来る限り自然肛門が温存できるように努めています。術後の化学療法も、希望される場合には当科で、手術時の担当医が適宜入院にて行つております。一方、外来通院を希望される場合には、外来化学療法室などを利用して外来通院で安全に行う体制も整えております。緩和医療についても、病診連

携によって緩和医療専門施設、在宅医療専門医に適切に紹介するばかりでなく、当科での緩和医療を希望される場合には外科の病棟においても適宜対応しております。小腸大腸肛門疾患でお悩みの際には是非、いらしてください。

下部消化管外科では、患者さんが安心して治療を受けられる



▲下部消化管外科スタッフ

PROFILE

外科学講座 教授 橋口 陽二郎

昭和60年東京大学医学部卒業。平成4年東京大学医学部付属病院第一外科助手、ニューヨーク州立大学留学、平成8年より埼玉県立がんセンター医長、平成12年防衛医科大学校外科講師、平成23年同准教授、平成24年4月より現職。専門は大腸癌、炎症性腸疾患。日本大腸肛門病学会指導医、日本消化器外科学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医。



帝京大学病院では紹介状があれば初診でも予約*ができます。
なお、紹介状のない方は直接ご来院ください。※前日までにお電話ください

受診までの流れ

帝京大学病院では、かかりつけ医との機能分担をすることにより、専門的な治療(手術、入院、精密検査など)をおこないます。

患者さん



紹介状のない方は直接ご来院ください

(ただし、選定療養費として3150円ご負担いただきます。)



帝京大学医学部附属病院
予約専用(医療連携室)
03-3964-1498

予約受付 平日 8:30~17:00
時 間 土曜日 8:30~12:30

初診受付

診療受付 時 間	平 日 (予約あり) 8:30~14:30 (予約なし) 8:30~11:30 13:00~14:30
	土曜日 8:30~11:30

紹介状をお持ちの患者さん

- ①予約電話(03-3964-1498)までお電話ください。
電話予約の際にご確認させていただく項目
(お名前、生年月日、性別、住所、電話番号など)
- ②予約完了
- ③当時は15分前までに初診受付までお越しください。

紹介状をお持ちでない患者さん

- ◎初診受付
診療受付時間 平日 8:30~11:30/13:00~14:30
土曜日 8:30~11:30
直接初診受付へお越しください。

アクセスマップ



- JR埼京線 「十条駅」より徒歩10分
- 地下鉄都営三田線 「板橋本町駅」より徒歩13分
- 国際興業バス 王子駅↔→板橋駅
「帝京大学病院前」下車
赤羽駅西口↔→王子駅
「上十条4丁目」下車徒歩3分
赤羽駅東口↔→高円寺駅
「姥ヶ橋」下車徒歩5分
王子駅↔→上板橋駅
「姥ヶ橋」下車徒歩5分
- 都営バス 王子駅↔→新宿駅西口
「姥ヶ橋」下車徒歩5分
- タクシー 十条駅より基本料金内
- 車 地下駐車場を完備 (221台収容可能【有料】)
※入院手続や外来診療でお越しの方は 100分間無料(以後25分毎100円)

編集後記

歩いてみよう! コミュニティストリート

この春、板橋キャンパスが新しく生まれ変わりました。今回はより充実した「コミュニティストリート」について。以前より並んでおりました当院の銀行、コンビニエンスストア、レストラン、クリーニング店、カフェに加えて更に、板橋キャンパスにもコンビニエンスストアやレストラン、ファーストフードがオープンいたしました。また、病院と板橋キャンパスの間に緑の空間が生まれ、お散歩コースとしても最適です。その際、ぜひお立ち寄りいただいてみてはいかがでしょうか!

特定機能病院

地域がん診療連携拠点病院

東京都災害拠点病院

帝京大学医学部附属病院

〒173-8606 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代)

お問い合わせ E-mail / renkei@med.teikyo-u.ac.jp



医療連携だより [アシスト]
ASSIST